

思いやりの心 福山から

幸千中美術部 平和訴えるパネル制作



平和を訴えるパネルを制作する幸千中美術部

福山市立幸千中(同「殺の犠牲になったアン市御幸町中津原」美術部)は、学区内にあるホロコースト記念館など、市民がバラを植えたエを題材に平和の尊さを訴える20枚のイラストから「ローズマインド」パネル作りに取り組んでいる。ナチス・ドイツによるユダヤ人大虐信する。

パネル(A3判)は、福山の名前が付いたバラ11種類の紹介から始まり、空襲で荒廃した市街地や市民有志の植栽活動をレタリングと写真を交えて説明する。記念館関係はアンネと家族らの写真を組み合わせたコーージュのほか、収容所に残されていた「15センチの靴」や「アンネのバラ」を作った園芸家の横顔を描いたイラストといっ

た構成。アンネのバラと市民の関わりは特に掘り下げ、現在まで続く接ぎ木活動などに注目した。記念館の大塚信理事長が平和学習で交流がある幸千中にパネル制作を依頼。バラ愛好団体・福山ばら会の協力で原作をまとめた。美術部有志15人が8月に着手。「アンネが生き延びていた」「印象を左右する背景色をどうするか」などイメージを膨らませて配色や構図を決め、青木舞子顧問が全体のバランスを調整している。3

年渡辺理紗部長(15)は「制作に向けて歴史を学び直した。みんなで作品を仕上げ、見る人に『ローズマインド』が広がればうれしい」と話す。大塚理事長が牧師を務める教会駐車場でも10月21、22日に開かれる「秋のぼら展」で完成品をお披露目する。村上啓二校長は「記念館は生徒が平和について考え続ける良い教材」。2025年の世界バラ会議福山大会でもパネルを活用する機会があれば」と期待を寄せた。(赤沢昌典)